せん孔細菌病　春季防除ポイントについて

（1）せん孔細菌病の枝病斑を必ず除去しましょう！ 注意）本年もせん孔病の多発が予想されます

開花期から、せん孔細菌病の春型枝病斑が見られるようになります。そのまま放置しておくと、感染拡大し、甚大な被害を及ぼします。特に６月下旬までは、せん孔細菌病の枝病斑を切除する最重要防除期です。薬剤散布を徹底するとともに病気の感染源となる枝病斑の除去を徹底的に実施してください。

◆ 各病斑の特徴

① 春型枝病斑…1 年枝の芽基部、または枝の先端が主体。6 月に入ると亀裂を生じ、ヤニを出す。

② 葉病斑…5 月中の感染は大型病斑となり、6 月以降の感染は細かい病斑となることが多い

③ 果実被害…伝染源から葉→果実→新梢（夏型枝病斑）へ感染する（葉での潜伏期間は 10 日程度）

◆ その他

① せん孔細菌病の常発地帯や風当たりの強い園地では、袋掛けを行う。（早めの実施で被害が軽減する場合も有）

② 薬剤散布間隔は 10～14 日以内とする。

（2）せん孔細菌病のストレプトマイシン（アグレプト水和剤等。 以下、ストマイ）感受性低下菌検出状況について

薬剤感受性・・・病原菌に対して対象薬剤の効果があるかどうかを表す。

一定濃度以下で効果があれば感受性、効果がない場合、中度耐性・高度耐性（感受性低下菌）に区分される。

○調査機関：長野県果樹試験場　　○調査地域：中野地域（中野市上今井も含む）

表　中野地域のモモせん孔細菌病発生圃場面積と感受性低下菌検出率　　長野県果樹試験場より情報提供

調査年度	作付面積(ha)	程度別発生面積(ha)					発生面積割合(%)	ストレプトマイシン感受性低下菌[1)]	
		甚	多	中	少	計		調査圃場数	検出圃場割合(%)
2013年	250	0	0	3	80	83	33.2	5	20.0
2014年	248	0	2	10	100	112	45.2	10	10.0
2015年	240	0	0	3	80	83	34.6	5	20.0
2019年	225	0	3	25	130	158	70.4	14	28.6

1)無～少発生圃場では低感受性菌発生の可能性は少ないと想定されるため、中～多発生圃場について調査

ポイント①・・・ストマイ感受性低下菌は、以前から検出されている。（2013 年以前にも検出された経過がある）

ポイント②・・・せん孔細菌病が多発しているからといって、感受性低下菌が検出されるとは限らない。
むしろ、感受性低下菌が検出されない圃場の方が多い。

ポイント③・・・オキシテトラサイクリン（マイコシールド等）の感受性低下菌は検出されていない。

（3）せん孔病対策特別防除暦について

以下に該当する場合は、特別防除暦の使用をご検討ください。（詳細は園芸課　23-3933　へお問い合わせ下さい。）

① 昨年、ＪＡ病害虫防除暦の通りに防除を実施したが、せん孔細菌病の被害が甚大であった。（果実被害５０％以上）

② これまで、せん孔細菌病の被害がほとんどなかった園地なのに、昨年は多発した。

＊注意事項

この防除暦は、ストマイ感受性低下が疑われる場合の応急措置です。通常防除としての使用は推奨しません。